

# 議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書  
R7年5月（一般用）

## 『政策の哲学』

中野剛志【著】/集英社（2025/1）



なぜ経済は停滞し、国家政策が十分に機能していないのか？現役官僚である著者が、政策の世界で覇権を握っていると語る「社会の实在を無視した経済学」に切り込み、矛盾を突く！

## 『税と社会保障 ～少子化対策の財源はどうあるべきか』

諸富徹【著】/平凡社（2024/7）



このままでは人口減少が進み、社会保障費の財源確保が、現役世代や低所得者層に過大な負担となってしまう。海外の政策も参考にしながら、少子化に備えた財源確保の方法について考える。

## 『言いたいことが言えないひとの政治学』

岡田憲治【著】/晶文社（2024/12）



自分の意見はあっても言いにくく諦めてしまう…。そんな人々に向けて、様々な場で自分の思いを上手に届ける技法・交渉術を、政治学者の著者が楽しくユーモアを交えて提案する。

## 『ライオンを飼いたい ～障害者支援の手前にあるもの』

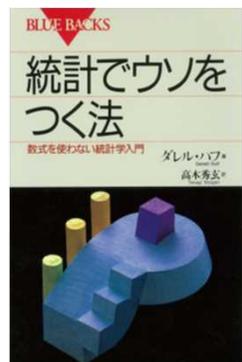
大久保薫、大友愛美【著】/中央法規（2025/1）



30年にわたり障害のある人の支援に携わってきた著者が、支援の方法について自身の経験から語る。支援者と利用者の関係性、支援と支配の違いなど、「支援の前にあるテーマ」に触れる。

## 『統計でウソをつく法 ～数式を使わない統計学入門』

ダレル=ハフ【著】高木秀玄【訳】/講談社（1968/7）



統計の数字やグラフを見ると、つい信じてなくなってしまうが、事実は統計通りとは限らない！統計にだまされない方法とは何なのか？今、再注目される統計学の古典的名著。

## 『平等について、いま話したいこと』

トマ=ピケティ、マイケル=サンデル【著】岡本麻左子【訳】/早川書房（2025/1）



能力や学力による不平等は果たして正当なのだろうか？世界的に注目される著者2人が、経済・哲学・政治を横断し、真の平等とは何か、どうすれば実現できるのかを語り合う。

## 『マイノリティの「つながらない権利」 ～ひとりでも生存できる社会のために』

雁屋優【著】/明石書店（2025/1）



障害のある人やLGBTQ+の人の中には、人と関わることが難しい人もいる。「つながらない権利も人権」と考え、多様な人々が自分らしく心地よい生き方を選べる社会を目指す。

## 『ハチドリ舎のつくりかた ～ソーシャルブックカフェのある街へ』

安彦恵里香【著】/地平社（2024/11）



まじめに語っても浮かない場所がほしい！そんな思いからできた、広島平和記念公園近くのソーシャルブックカフェ「ハチドリ舎」。広島と世界をつなぐ場所はどのように生まれたのだろうか？

▶ 「子ども・学校」に関する書籍



新着

『憲法の学校 親権、校則、いじめ、PTA～「子どものため」を考える』

木村草太【著】/KADOKAWA (2025/2)



学校などの閉鎖空間で起きるトラブルこそ「憲法」に立ち返り考えてみよう！  
2児の父でもある憲法学者の著者が、教育の名を借りて子どもに迫る「暴力」について考える。

新着

『小児科医「ふらいと先生」が教える みんなで守る子ども性被害』

今西洋介【著】/集英社 (2024/12)



医療・育児インフルエンサー「ふらいと先生」として知られる小児科医が、まだ知られていない小児性被害の真実や、すべての大人ができる、子どもを守る方法を伝える。

新着

『挑戦し続ける学校SOLAN ～自立・自律した学習者のための教育をつくる』

瀬戸SOLAN学園 初等部【著】/ポイジャー (2025/2)



愛知県瀬戸市の株式会社立 SOLAN学園は、「グローバルシチズンシップの育成」を掲げた独自カリキュラムを実践する小学校として注目されている。学園の教員たちがその教育方法の秘訣を語る。

新着

『今すぐできる学校の防災管理 ～少しの工夫でこんなに改善！』

廣内大助、佐々木克敬【著】/とうほう (2024/9)



すぐに完璧を目指すのではなく、少しの工夫や積み重ねで効果を発揮できる学校防災の対策例を紹介。特別支援学校に特化した対策例も分かり、インクルーシブ教育においても参考となる1冊。

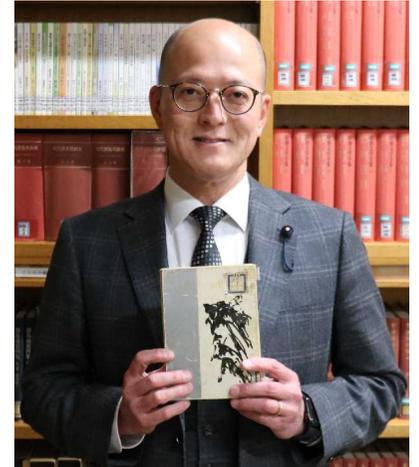


図書広報委員がおすすめする一冊

『赤城～ふるさとの山 (みやま文庫 第1巻)』



編集：相葉伸/みやま文庫 (1961年9月)



紹介者：相沢 崇文 委員長  
自由民主党・桐生市選出・2期

今年度、図書広報委員長として「みやま文庫」の副会長を務めさせていただきました。

みやま文庫は群馬県の歴史、文化、産業、経済などの多方面にわたる研究、実践の貴重な文献を会員皆様にお届けし、2月14日発行の最新刊で253号となりました。

そこで今回は、昭和36年9月10日発行の記念すべき1号、『赤城～ふるさとの山』を紹介させていただきます。

当時、県民が待ち望み4年の月日を経て初刊に至るみやま文庫は、志賀直哉の座談である赤城山の随想「焚火」のころから始まります。そこから、各方面の専門分野の執筆陣による赤城山の歴史、民族伝説、自然、気象、地質、生物、農林業、観光、文学が紹介されています。

当時の生活や風土が垣間見え、現在との比較に唸ることが出来る貴重な一冊です。群馬県議会図書室でも読むことが出来ますので、ぜひ手にっていただきたいと思います。

⇒ R6年度図書広報委員（10名）最後のおすすめとなります！

議会事務局政策広報課（議会図書室）